

沖縄戦、 そして現在の沖縄

第10回
人権シンポ
inかながわ

#沖縄復帰50年

今年沖縄が本土に復帰して50年となる節目の年です。しかし、米軍基地の負担は軽減せず、近時は「南西シフト」により、自衛隊の配備も進められています。

沖縄では、国内で唯一、住民を巻き込んだ地上戦が行われました。沖縄県立第一中学の生徒は、学徒兵として動員され、命を落としました。その遺品、資料を展示する「一中学徒資料展示室」を、オンライン・ライブで、見学します。

そして、辺野古新基地建設をはじめとして、今なお、多くの負担が沖縄に集中させられている現状について、北上田源さんからお話を伺います。

戦争がいかにむごたらしく人権を侵害するものであるか、改めて考え、沖縄を再び戦場にするようなことがあってはならないことを、確認したいと思います。

オンラインツアー

「沖縄戦と 一中学徒資料展示室」

ガイド 大田 光 さん

琉球大学院生・琉球大学非常勤講師



お話

「辺野古新基地建設、 沖縄が直面する様々な問題」

講師 北上田 源 さん

琉球大学教育学部准教授



2022年 11月3日(木・祝)

WEB
開催

14:30~16:30

要申込 裏面へ



平和の礎の慰霊碑



辺野古岬を望む



嘉数の高台



米軍嘉手納飛行場

沖縄戦における学徒動員。

戦前、沖縄には21の中等学校がありました。
沖縄戦では、これらのすべての男女中等学校の生徒たちが戦場に動員されました。

女子学徒は15歳から19歳で、主に看護活動にあたりました。

男子学徒は14歳から19歳で、上級生が「鉄血勤皇隊」に、
下級生が「通信隊」に編成され、鉄血勤皇隊は、軍の物資運搬や爆撃で破壊された橋の補修などにあたり、通信隊は、爆撃で切断された電話線の修復、電報の配達などの任務に従事しました。沖縄戦により、学業半ばで多くの学徒が短い生涯を散らしました。（沖縄県ホームページより）

女子学徒隊の「ひめゆり学徒隊」は、御存じの方も多いのではないのでしょうか。

沖縄戦では、1000人もの学徒が、戦死しました。

一中学徒資料展示室とは。

一中学徒資料展示室には、沖縄県立第一中学校から動員され、命を落とした生徒たちの遺影や遺品が展示されています。

また、戦火のなかでの、一中学徒隊の動きを知ることができます。



この企画は、
オンラインで実施します。

参加申込方法

下記URLかQRコードから、お申し込みください。

お申し込みの方に、参加のURLをお送りします。当日、時間になりましたら、URLにアクセスして、視聴してください。

視聴の際は、ヘッドフォン、イヤフォンをご使用いただくことをお勧めします。



<https://www.kanaben.or.jp/news/event/2022/sympo2022.html>

主催：神奈川県弁護士会

共催（予定）：日本弁護士連合会、関東弁護士会連合会

お問合せ：045-211-7705（平日9：00～12：00、13：00～17：00）